

## 平成 30 年 4 月 1 日から「DPC に参加します」



事務部医事課課長  
診療情報管理士  
木村 貴志

当院は、本年 4 月より DPC 参加病院となります。平成 19 年に DPC 準備病院として DPC 調査研究事業に参加してから 11 年を要しました。今日に至るまで、連携先医療機関の先生方をはじめ多くの皆さまに患者さんのご紹介をいただき、腎・泌尿器疾患を専門とする急性期病院らしくなることができました。心から感謝しお礼を申し上げます。

さて今回は、DPC 制度と 4 月からの当院の取り組みについて、ご説明させていただきます。



### 1) DPC 制度について

#### 【制度の概要】

DPC (DPC : Diagnosis Procedure Combination) とは、退院患者を対象とした日本独自の診断群分類のことです。診断群分類とは、臨床上の視点から「傷病名」と「医療資源の投入量」に着目し、「類似した患者」をグループ化したケースミックス区分法の一つで、平成 29 年 12 月末現在、包括対象 DPC 数は 4,244 区分となっています。

#### 【全国の導入状況】

DPC 参加病院の数は年々増加しています。平成 28 年度には 1,667 病院、およそ 495,227 床が DPC 実施病床となっています。また、平成 26 年度医療施設調査によると、全病院数の 22.5%、病床数でみると 55.4% が DPC 実施病床となっています。

年度	対象病院数と割合		対象病床数と割合	
平成 15 年度	82	1.1%	66,497	7.4%
平成 18 年度	359	4.8%	176,395	19.7%
平成 20 年度	713	9.6%	286,088	32.0%
平成 22 年度	1,388	18.7%	455,148	50.9%
平成 24 年度	1,505	20.3%	479,539	53.6%
平成 26 年度	1,585	21.3%	492,206	55.0%
平成 28 年度	1,667	22.4%	495,227	55.4%
平成 26 年 一般病院	7,426	100%	894,216	100%

当院の教育施設認定

ワークライフバランス

- 日本泌尿器科学会泌尿器科専門医基幹教育施設
- 日本透析医学会専門医制度認定施設
- 日本麻酔科学会麻酔科認定病院
- 日本緩和医療学会認定研修施設
- 協力型臨床研修病院
- 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設
- 産休・育休後の復職率 100%を 13 年間継続しています

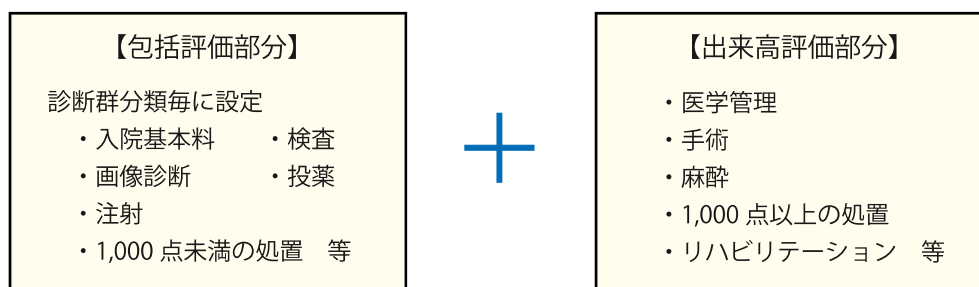
## 2) 4月からの当院の取り組み

### 【対象患者さん】

平成 30 年 4 月 1 日以降に入院された患者さんで、包括点数の設定された診断群分類に該当する方が対象となりますが、厚生労働大臣が定める高額薬剤を使用した患者さんや短期滞在手術を目的に入院された患者さんは、DPC の対象外となります。

### 【入院費の計算について】

DPC は、厚生労働省の定めた 1 日当たりの「包括評価部分」と「出来高評価部分」を組み合わせて計算します。「包括評価部分」には投薬や注射、画像診断や血液検査等が含まれ、これらを多く行っても、1 日当たりの医療費に変わりはありません。手術や 1,000 点以上の処置・リハビリテーションなどについては、これまで通り出来高で計算します。



厚生労働省は、支払い方式の違いによる長所と短所を次のように説明しています。

支払い方式	長所	短所
出来高い	<ul style="list-style-type: none"> <li>○患者の状態に応じた医療サービスの提供が容易（過少診療の予防）</li> <li>○新しい医療を保険診療に取り入れることが容易</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○過剰診療を誘発する恐れ</li> <li>○請求、審査支払い事務の複雑化</li> </ul>
包括払い	<ul style="list-style-type: none"> <li>○過剰診療の防止</li> <li>○請求、審査支払い事務の簡素化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○過少診療の恐れ</li> <li>○診療内容の不透明化</li> </ul>

時代の要請である包括支払い制度のメリットを活かし、当院では

- ①患者さん一人ひとりに適切な医療計画を作成し実施する
- ②定期的に全国の医療機関とベンチマークを行い、適切な医療が提供できているかをチェックし改善のために、計画→実行→評価→改善（PDCA）を繰り返す
- ③患者さんの疑問に丁寧にお答えする

この 3 点に留意し、先進的で質の高い医療を効果的に提供できるよう精進して参りますので、これからも従来と変わらぬご指導・ご鞭撻ならびに連携推進をよろしくお願い申し上げます。